



気候変動と環境経営(8)

夏と冬の二季化

12月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025年12月21日(日)

ざっくり理解する気候変動 井川夕慈著より

2023年7月が観測史上最も暑い月になる見通しが発表された。その日 2023年7月27日、国連のグレーテス事務総長が「地球沸騰化(Global Boiling)の時代が到来した」と極めて強い警鐘を鳴らした。

これまでの「温暖化(Global Warming)の段階から」、気候変動の影響が待ったなしの危険な段階への突入を強調したものである。

「温暖化」にはまだ猶予が感じられるが、「沸騰化」は今すぐ、刷新的かつ抜本的な対策が必要であることを示している。

グテーレス事務総長は、「化石燃料から得る利益、と気候変動に対する不作為のレベル(猛暑、台風、干ばつ、大雨、洪水、山火事など)を受け入れることは到底できません」と述べ、化石燃料への依存を強く非難した。このメッセージは、パリ協定で掲げられた気温上昇+1.5°C目標達成の道筋が危うくなっているという強い危機感の表れである。

そのせいか今年の夏は長かった。

特に内地では、10月に入っても最高気温が25度以上の夏日が東京で10日、大阪では17日を数え、半袖姿が多くなった。

この夏の期間は、1982年～2023年の42年間で約3週間長くなったという。

これは、「地球温暖化による海面水温の上昇が主な要因」で、春と秋が短くなり、**夏と冬の二季化**(三重大学研究)が進んだという。

広辞苑には、**二季とは四季の中の二つの季節、春と秋**とあるが、今や二季とは夏と冬のことである。今年の夏の長さはどこから見ても異常であった。

「**二季**」が今年の新語・流行語大賞の候補にあがり、「クマの被害」もノミネートされている。

クマが増えたのも気候変動で秋が短くなり、クマの食糧となるドングリが不足し、エサを求めて人里に出て来たのではないかと言われている。11月22日は暦の上では「小雪」、雪が降り始める時季である。そして来月7日の**大雪**(12月7日)を過ぎれば、その後12～16日は第七十二候の熊蟄穴(クマアナニコモル)となり、文字通りクマが「冬眠」する時季となるという。

(公明新聞 2025.11.22 等から)